愛國婦人

明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可　每月二回一日十五日發行

愛國婦人會機關

人の道（上）

文學博士　南條文雄

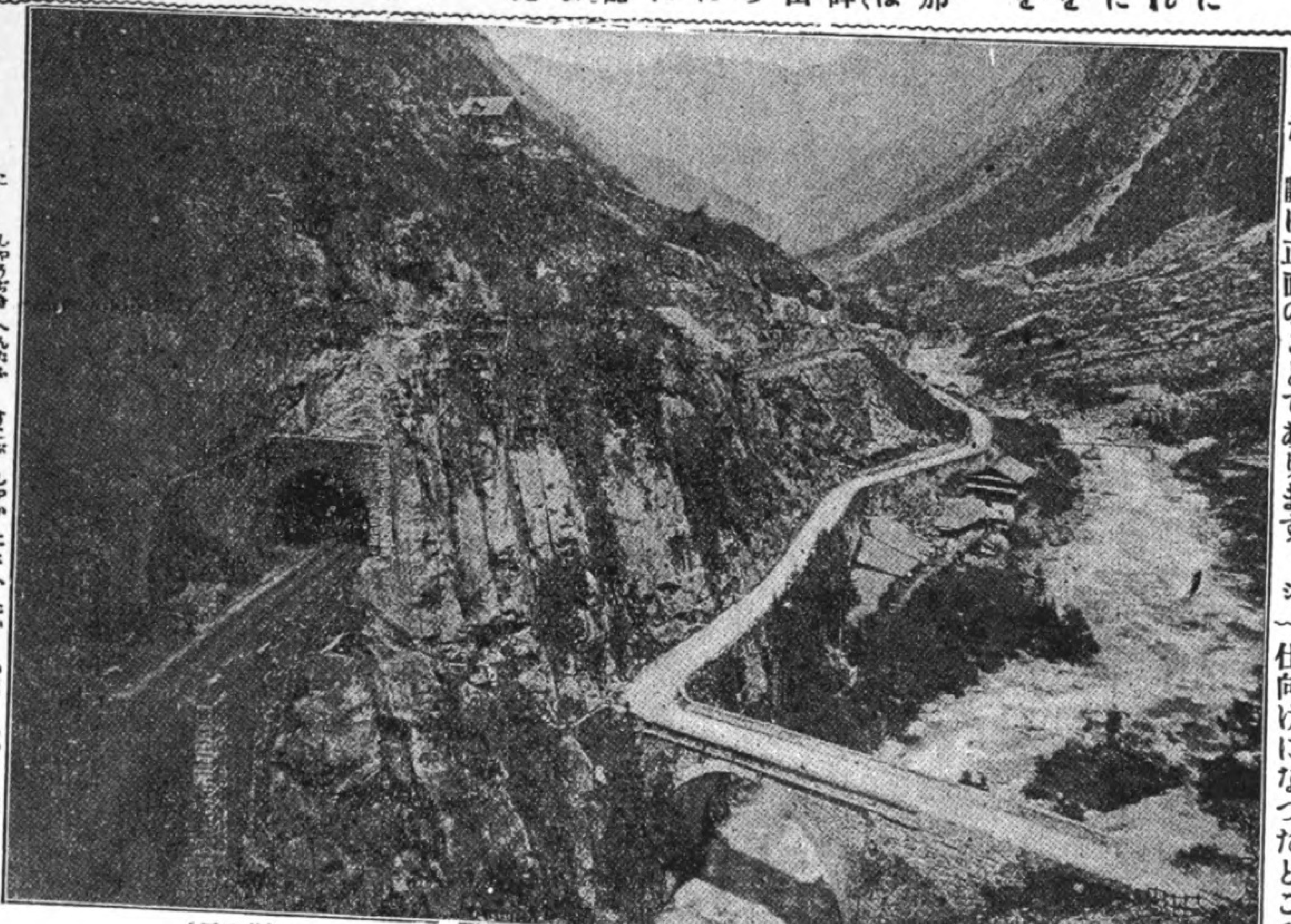
各自端守といふ四文字の意味を一言に申せば、各自の爲すべき事を正しく守れと云ふのでありまして、之れは佛書中にある古い詞でありますが、此の四文字を題目とし、六方禮經の一節に就てお話を致したいと思ひます。

この經は印度から支那に傳はり、支那から我國に傳來したのが今から一千年ばかり以前の事でありますが、素より漢譯の書でありまして未だ本邦文に飜譯が出來ない以前に、印度の南錫蘭島で英國の法律家チルダルスと呼ばれる人が英文に飜譯して、明治九年二月倫敦で發行されたコンテンポラリ、レヴユーと云ふ雜誌に掲載られた事がありますのを、私が初めて英國に參つた折奇なる動機から披見る事を得たのであります。

勿論經の全文のお話を致せば餘り長くなりますから、其内の六方禮の處を少しばかり述べる事に致します。

さて今から三千年の昔三千里遠方の印度の王舍城といふ町に、若き長者で名をシーガラーと呼ばれる男がありました。

釋迦如來が鷄山の中に在らせられて、早朝に王舍城の町へ托鉢にお出掛けになりますると、或日の事其途中に若い一人の男が頭から水を浴びて體を淨め、而して東西南北上下の六方に向つて四返づゝ禮拜して居る。此の男が即ちシーガラーでありました。釋迦は遙に此有樣を御覽になりましたが、緣ある者と御思ひになつて其家に行き、何の爲めに禮拜するかと御問ひになりますと、シーガラーは、「何の爲めと云ふ講釋を聞く暇もなく死んだ所の親父に敎へられたので、其譯柄は聞きませんが、毎朝の心得にせよと言はれたので、其訓戒を守り親父の死後毎朝斯くするのであります」と答へました。知りたるを知りたりとし、知らざるを知らざるとする事は、孔子も大に稱美になりました、誠に正直のことであります。シーガラーの此の正直な返答は頗る釋迦如來の思召に叶ひ、親の言附故譯は知らぬが之れを行ふとは誠に感心な者である、此者は確に敎へ甲斐のある若者であると思召して、六方を禮拜するのには禮拜する心得がある。唯姿で六方に禮拜すればそれで宜しいと云ふのではない。その心得は自己が知つて居ると御言ひになりました、すると若者は釋迦の御詞に依つて其心得を聞きたくなつたのであります。此處か佛の善巧方便で、釋迦が自ら說いて聞かせやうとお言いになる迄もなく、若者から進んで御尋ね致すやうに御仕向けになつたところに妙味があるのであります。



アルプス山の絶景セントゴタールの鐵道線路……（其の五）

そこで釋迦如來は請に應じて六方禮の心得を申し聞かせになりましたが、夫れは全部で五十六ヶ條程ありまして、先づ東に向つて禮する心得は、人の親となつて子に對する心得五ヶ條及び子となりて親に對する心得五ヶ條、夫れから南に向つて禮拜する心得は師匠と弟子との間柄で、師として五ヶ條弟子として五ヶ條、西に向つては夫婦間の心得で、夫が妻に對し妻が夫に對し各五ヶ條又北に向つては友達親類何れからも五ヶ條、其外下方即ち大地に向つて禮拜する心得は、主人と奉公人間の心得で之れも各五ヶ條、最後に上方即ち天に向つて禮拜する心得、之れは宗敎の敎を聞く人の心得が五ヶ條宗敎の敎を施す人の心得が六ヶ條、即ち合計五十六ヶ條であります。是れ丈の敎を釋迦はシーガラー一人の爲めに御說きになつたのでありますが、此五十六ヶ條を一々解說事は時間の都合上困難でありますから、茲には東南の各十ヶ條に就て簡短にお話致すことにいたします。（つゞく）

●跡見刀自の敍勳

先般三輪田棚橋兩刀自に對し女子敎育に貢獻したる廉を以て敍勳の御沙汰ありしが兩刀自と並びて我國女子敎育家の泰斗たる本會評議員跡見女學校長跡見花蹊刀自も亦去八日兩刀自同樣左の如く敍勳の恩命に浴せられたり。

敍勳六等授寶冠章　跡見花蹊

刀自は攝津の人、若年より學問書畫を研究し幕末の頃初めて大阪に私塾を開き漢學及び書畫の敎授をなし慶應元年京都に移轉し明治三年東京に上り神田三崎町に一私塾を開けり之れ跡見女學校の濫觴なるが明治八年校舍を神田猿樂町に移し初めて女學生用袴の制を定め亞で小石川柳町なる現在の地に校舍を移し漸次規模を擴張し以て今日に至り前後五十年に亘りて我國女子敎育の爲めに盡粹し卒業生を出すこと實に四千餘名に及べり此間畏き邊りの姫君にも御敎育申上げ閑院宮三女王殿下にも先頃まで刀自のもとに御通學遊ばされたり、今回刀自が多年の功績天聽に達し敍勳の光榮に接す刀自一身の榮譽は勿論又全國敎育家の名譽と云ふべし、因に刀自敍勳の事あるや閑院宮妃殿下よりは御恭悦に思召す趣御使を以て御申越遊ばされたりと。

本號主要目次

▼アルプス山の絶景（寫眞版）▼本會最高功勞者肖像（同）▼人の道（南條博士）▼大敵軍の襲來（江原素六）▼生活難を防ぐは婦人の手なり（中川謙二郎）▼座居の弊害（土肥博士）▼婦人の力（來留島武彥）▼北白川宮殿下（如燕）▼鯉の裁判（風谷）●愛國婦人會々報二頁　●本紙十二ページ（附錄共）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人を襲ふ大敵軍來らんとす（中）

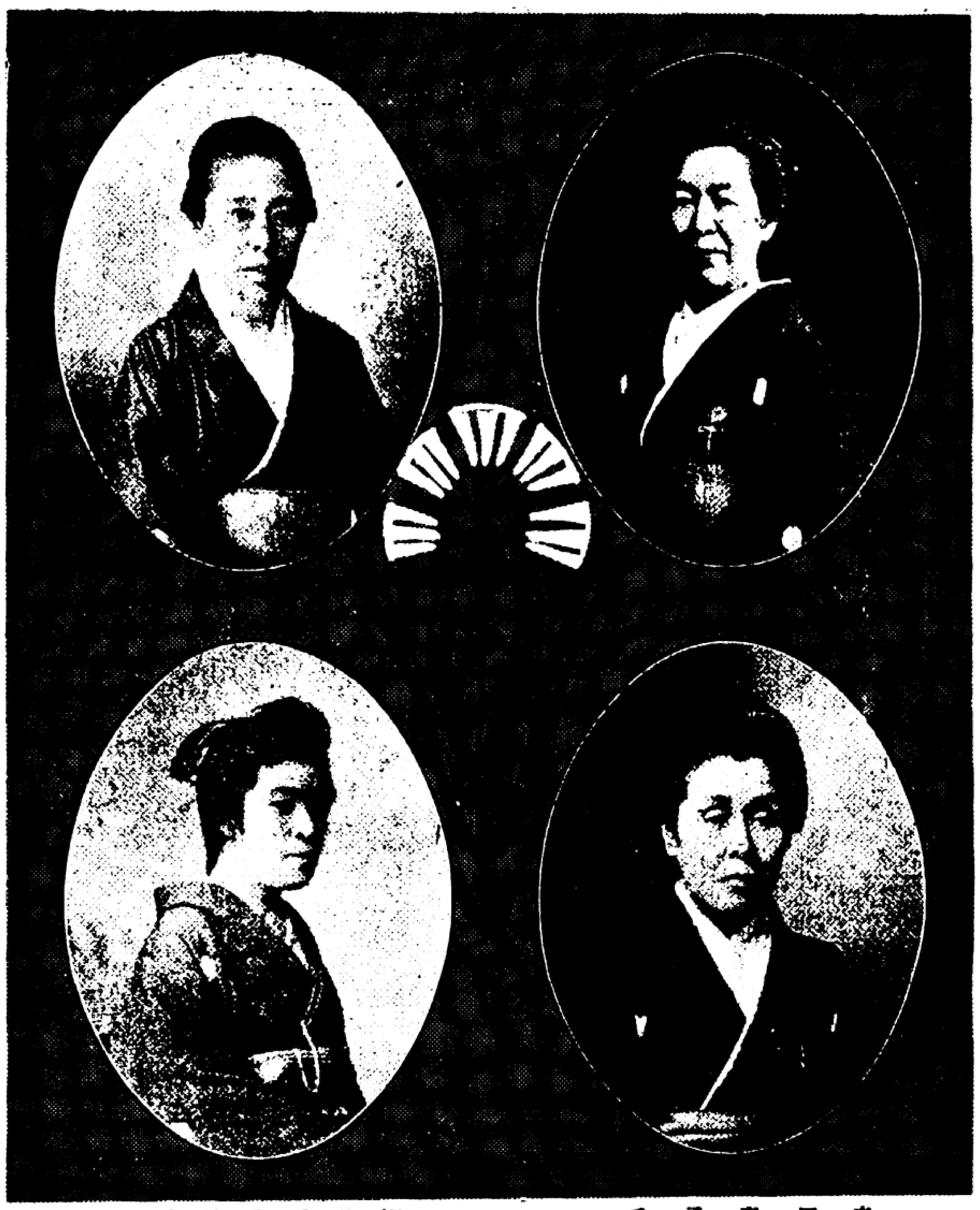
貴族院議員　江原素六

▲誰が奢侈虚榮の心を滿足せしめ得べき

元來奢侈なるものは其結果はどうなるかといふと、唯一つ痛苦が殘るのみであります、奢侈とは何ぞや、物質上の滿足といふことです、扨て其物質上の滿足ではどうしても本當の滿足を得られるものでは無いのです、何となれば吾々人間には誰でも習慣性といふものを有つて居る、之を有たないものは人間ではない、乞食でも三日すれば忘られぬといふまでの習慣が附くものである、然らば綾羅錦繡、美酒佳肴もちよつとは美しい、ちよつとは甘いが、之れも習慣となれば美しくもなければ甘くもない、更に三越へ行かねばならず八百善へ行かねばならぬ、それも習慣となれば直に不滿足の念が起つて來る、而して奢侈虚榮心といふものは幾らやつても滿足が出來ず、それを滿足せしめる所の資産はどんなことをしても續くものでないのです、如何なる大家と雖も如何なる金滿家と雖も奢侈虚榮を滿足させる力は到底無のです、奢侈虚榮を滿足せしめむとするのは北極の星を摑むよりはむづかしいと言ひます。

明の代に或天子のお孫さんが其時代の最も金のある皇族の處に嫁に參りまして贅澤此上なしに暮しました、併ながら皇帝は孫の前途の爲めに御心配なされて機があつたならば意見を言はうと思つて居りましたが、なか／＼ハイカラのお孫さん容易に意見の言ひ樣がなかつた、或時の夕方ちよつと五六人の供を連れてお孫さんの家に御出になつた、ところが非常な喜びで上を下への騷ぎをして御馳走を出したが、其御馳走は大したもので「朕は宮中にあつて斯の如く甘いものを喰べたことがない」と云はれるのです、其中一つの御吸物の味は別段であつた、そこで皇帝は「是は大層甘いが嘸調理に手が掛るだらう」と言はれると、ハイカラ先生極まつた口上で「イエなアに知れたものです」「どうして製つたか」と尋ねますと、「鷄の尾髓の所を綺麗に毛を拔いて、それを緩くりと鍋で炙りますと脂が出ます、其脂を取つて置いて、其尾髓を叩いて團子に丸めて其廻りに饂の粉を衣に着せて先きに叩きまじた脂で天麩羅にするのであります」「さうかね、それならば此吸物一椀に付いてどの位鷄が要るか」「イエぼつちりであります、鷄ならば三十羽もあれば澤山です」と言つた、大抵そんなものであります、日本にはそんな者は澤山はありませぬが、歐羅巴あたりの奧さんやお孃さんはそんなやうなことをやつて自慢をして居る、翌日天子樣が又御出でになつた所が大層喜んで前の通りの御馳走をした、又三日目に續いて御出でになつたが、其晩の御吸物は前のやうに美味しくないのです、そこで天子が「早もう習慣が附いたのか今宵の吸物は一昨日、昨日ほど甘くない」と言ふと「陛下が斯んなに毎日あらつしやりはしまいと思ひましたが、實は今日は鷄の脂は止めて唯の油でございます」そこで天子が「お前位の財產家でも益もない贅澤は三日續かないではないか、故に無益の贅澤といふことは決して永續するものでない」と言つて懇々意見を言はれたことがあるのです、故に一遍奢侈の習慣が附いたならばどうしても滿足が出來ない、然らばそれを止めやうか、極シムプルライフに歸らうかと思ふと、長い間の奢侈の習慣は止めることが出來ない、繼續せむか、底止する所がない、止めやうとしても止めやうがないと言つて歸する所痛苦といふもの、外に何も得る所がないのが是が即ち奢侈であるのです、故に奢侈は眞正の幸福と併行するものでないといふ格言は決して偶然ではないのであるのです、即ち本當の幸福は心の樂みである心の樂みは良き藥なり、靈の憂は骨を腐らす、吾々眞正の幸福は物質を以て得られるものでないことは明かなことである。

明治四十三年度特別徽章拜受者



寺田春子氏　横幕むら子氏　柳谷千代子氏　渡邊稻子氏

▲奢侈は己の子孫を慼にす

奢侈といふものは又己れの子孫を慼にするものであるのです、子供は親の眞似をしたがるものである、親の側へ付き添ふて、付き添ふて五月蠅い程付まとふて而かもそれは親のすることを見たいのです　親のすることをして見たいのであるのです、若し其婦人たる者が或は主婦となり或は妻となり或は母親となり悉く其職責をまめやかにしますれば、それを能く見て居ります、見て居つて其通りに己れがやりたいといふ考が起りますけれども、母親が唯着物を着ることばかり白粉を附けることばかりして成るだけ鼻を高くしやうと思つて鼻ばかりいぢつて居るのでは迚も子供の知識は進むものではないのです。

佛蘭西のルイ第十五世の皇后はメリーといふ人でありますが、非常に贅澤な杳を極めた家庭で育つたのであります、けれども天子の皇后でありますから、そんなに差支もなく贅澤が出來た、然るにルイ第十五世は天然痘に罹つて俄かに崩せられたので其メリーといふ皇后の孫がルイ第十六世となつたのです、其時に御存じの通り佛蘭西は非常な饑饉で、人民が喰へなくなつて道に斃れて死ぬ者があると言つた所が、皇帝は、扨々人民なる者は左迄に怠惰な者であるか、ナイフで肉を切つてホークで口へ持つて行くことが出來ないのかと言つた、又宋の徽宗皇帝の總理大臣に蔡京といふ人がありました、其人は非常な贅澤でありました、此宋の徽宗皇帝の贅澤は天下を風靡したのであります、そこで此蔡京といふ人が或時食事をする時に一人の娘に此御飯は何處から出るかと申しました、ところが、是は臼の中から生えますと答へた、一人の娘は、お米は臼の中からは生えませぬ、何處から生へるか、俵の中から生えると言つたのです、是は其時代の有名な話であります、即ち家庭の主婦たる者が奢侈虚榮に流れましたならば、それを見て居る子供は殆ど是と程度が違ふだけで同じやうな有樣になり、子供が馬鹿になりまして、子孫は繁昌しないで却て滅びるのであります。（つゞく）

●臺南幹事部の桑園

愛國婦人會臺灣支部管内臺南幹事部に於ては、會員の養蠶を奨勵する目的にて、豫て臺南農會の試驗に係る養蠶業につき時々參觀等を勸誘しつゝありしが、今回更らに進んで其の飼養希望者の便利を圖り、蠶種は素より桑葉までも給與する計畫を立て、廳長官々舍附近の官有地、其他篤志者の所有地を借り受け、桑園を經營する筈にて、近々桑苗の植付けに着手する由なり。（通信）

愛讀者諸君へ謹告

▲番附の代金　に付前金[illegible]ケ月七日[illegible]おります、此代金は四月、七月、十一月の三回に御請求致します。其の手續きは郵便はがき又は集金人を差出します。其外都合に依りては郵便局に委託し請求致す事もあります。此の代金を御送りにな[illegible]假實もいりませんから御振替料でございます。但振替で御送金になる時は、拂込口座登記料として金一錢必らず御添へを願ます。

▲[illegible]日の御參考に御保存願ひます。

▲郵便切手　で御注文又は御送金の節は必らず一割増に願ひ上げます。

▲愛國婦人發行所　の振替口座番號は東京一一三八一番であります。

▲お手紙の御住所御姓名　は明瞭にお認め下さい御轉居の節は、必らず新舊御住所御認め被下度願ひます。

愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

生活難を救ふは婦人の手なり

中川謙二郎

先頃我が校が皇后陛下の行啓を忝ふ致しました折に、御前講演の榮を得ました一少女が、『手』に就て講演いたしたが、頗る興味のある講演でありました。昔よりして、傾國の婦人と云ふ事はあるが、興國の婦人と云ふ事は無い。併し、我々の考へでは、婦人の手は日本國家の興廢のかゝる處であると思ひます。婦人の手の働かし方一つに依つて、日本が興りもし亡びもするものであります。例を遠く取る迄もなく、日本の重要輸出品たる絹糸は、誰れの手に依つて作られたのでありませうか、則ち婦人の手一つで作られたものではありませんか。日本婦人の一小部分のみが手を働かしただけで、かく日本一の重要なる輸出品を作り出すのであります。日本人の半數を占める婦人が、悉く其雙手を生産事業に働かしたならば、二十億萬圓の國債位は直ちに返濟して、尚餘裕ある事と思ひます。此に於てか、私は婦人の手は實に興國の手なりと云ふ所以であります。

物價騰貴、而して生活難に迫はれて居るのは、月給取りの家庭でありませう。單に官吏の家庭に限らない。會社員、技術家等月給を貰ふて居る家庭が最も困る之れは何故かと云ふに、家庭に副業が無いからであります。家庭にあつて少しも生産的事業を營まぬからであります。夫が貰つた月給に家庭一同が寄食して居て、消費する事だけは知つて居るが、一厘一錢の微なるものも、家の内に生み出す丈の力が無いからであります。月給取りの家庭に在つては、何か副業を營むを以て非常の恥辱の如く感じて居る。内の主人は幾十圓取りの主人である。然るに其家内たるものが苟も内職に類似したる仕事を始めては、近所の手前も恥かしく、主人の友達に對しても顔向けが出來ない、食ふものは食はないでも、金を取る仕事に從事することは出來ないと云ふが一般である。此思想が東洋風であつて、働かずに暮して居るのが高等なる生活のやうに考へて居る。之れが根本的の誤りであるのです。西洋では左樣でない。幾ら金がたまつても全力を盡して働き、勤勞に服するのが人間の名譽であるとの思想を有つて居る。日本の家庭ではよく云ふ事であるが、近頃は御蔭げで働かなくとも喰へるやうになりましたと云つて、働かぬのを自慢にして居る。斯樣な思想は根本的に破らねば、日本の國家は振ひ興る事は出來ません。東洋的の遊びつゝ食ふのが上品であると云ふ思想は何處までも排斥なくてはなりません。

近來、愛國婦人會にも手藝部を置き、貴婦人方が自から手を働かして生産事業に從事されるとの事でありますが、頗るよい企だと思ひます。日本でも農家の家庭及び商工業家の家庭に在つては、直接に生産事業に從事する事があるが、月給取りの家庭には殆んど無い。僅か二三十圓の月給取りの女房でさへも、朝から朝湯に入り、裝粧をしてぶら〳〵遊んで居るのを至極名譽として居るものもあるさうであつて、月給取りの家庭は副業を忌む風が甚だしい。官吏の家庭は服務規律なるものがあつて、商業を營む事は出來ないが、併し、他の仕事は何んでもよろしい。手藝を爲るも宜しい。養蠶を爲るも宜しい。家庭の用事の外に別に一定の時間を設いて、何か副業に勸める事を爲るが宜しい。金を儲ける事は恥辱だと思ふならば、自家の爲めに金を儲けるのではなく、國家の爲めに仕事をするのであると考へれば宜しい。婦人と雖も國家の爲めに盡さねばならぬ。直接國家の爲めに盡すの途は、婦人が手を働かして生産事業に從事することが、則ち國家の爲めである。日本の國債二十億萬圓の一部分でも取り返さんが爲めであると、左樣考へ直せば、決して恥かしく思ふ事は無い。彼是れ云ふ人があつたならば、之れは國家の爲めである。笑ふ事を止めてあなたも私と同じく國家の爲めに盡しなさいと云つて、誘ひ合ふが宜しい。斯くして一般の勤勞の風を起したならば、日本の國家を裨益する事が大なるのみならず、又一家を救ふ事が出來て、生活難から免るゝ事が出來るだらうと思ひます。

●座居の弊害

醫學博士　土肥慶藏

▲自己で自己の惡口を云ふやうなものであるが、お互日本人の體格は餘り立派な體格ではない。脊丈の點に於ても西洋人は勿論、印度人や支那人にも及ばない。筋肉の發達の弱ひこと、血色の惡ひこと、殊に婦人は概して虚弱である。之れは實に油斷のならぬ大事件である。

▲かの英國婦人參政權運動者の行爲は感心の出來ぬことであるが、運動者の一人たる某貴婦人の言葉が面白い。是れまでの婦人と云ふ者は餘り身體が孱弱な爲めに、斯くまで男子の壓制に盲從して居らねばならなかつたのである。今は女の腕力は決して男に劣らぬと云ふことを見せねばならぬ、こうして鍛へ上げたのが我腕である、今度の運動で男子と喧嘩をしても一向ひるまなかつたのは、全く多年體育に注意したお蔭である。』とかう云ふやうなことを法廷で腕をさすつて滔々と述べ立てゝ居る。西洋の巴、板額、中々強い御婦人であります。

▲此の男に立優る位の體格の養成だけは我國の婦人にも眞似て頂きたいものである。「健康なる身體には健康なる精神が宿る」と云ふが、婦人にとりては啻に夫れのみでなく、尚一層大切なことがある。即ち「健康の身體には健康の子供が宿る。」と云ひたい。婦人の體格は取も直さず將來我國民の體格を改良する第一の要素であります。

▲然れば如何にして我國民の體格を立派にするかと云ふと、それはお互に衛生に注意せなければならぬのは勿論であるが、衛生には公衆衛生、個人衛生の別があり、個人衛生にも亦積極的と消極的の別がある。消極的衛生法は寒い目に遭ふな、不消化物はたべるな、餘り勉强はするなと云ふ、之れは病人の衛生で、健康な人間は少し位薄着しても風を引かぬ、御飯も澤山食べる。人一倍働いても草臥れぬと云ふ風でなければならぬ。近頃學校でも積極的衛生に注意し、運動を奬勵した結果、今では餘程若い婦人方の體格も宜しくなつて來たが、併し眞に日本人の體格を根本的に直すには、まだ〳〵遠い。そこで私は衣食住の改良を皆樣に勸め致したいと思ふのであります。

▲さて衣食住の改良と云ふと、範圍が誠に廣いやうですが、私の考では第一に坐る事を止めれば、外の事は自然に解決するものと思ひます。總て何事によらず一人でも卒先してさういふ陋習を破ると、夫れが二人に傳はり、三人になり、遂には一般に及ぶものであるから、暫くの間の辛抱が大切である。此の坐るのを廢したいと云ふと誠にハイカラのやうに聞えるが、之は私の多年の希望で、坐るのを全廢するとすれば、衣服の如きも自然と改良ができる。今の着流しで腰かけて居ては腰が冷る、裾がまくれる、そこで袴をはく習慣がつく。腰を掛けるやうになれば夫れ相應に衛生的な住居の改良も出來、人間も活發にまめに立働くやうになるから、自然國も益々富み榮へる結果となると思ひます。

さて、それでは衛生上坐るのはどれ程害があるかと云ふ事を以下簡單に述べる事とします。『つゞく』

（婦人衛生會に於ける講演の一節）

▲ナイトドレスの好評、本郷區眞砂町大通大河内洋服店製造のナイトドレス（一名寢冷しらず）はキヤラコ、イタリヤ、メリヤス、セル、木ネル等を以て製造し四五歳より十三四歳までの男女小兒に愛用せられ夏季衛生上缺くべからざる品なり亦暑中中元の贈答物としても至極適當の品且つ避暑旅行の携帶品として賣行非常に盛なりと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人の力（三）

久留島武彦

それから日露戰爭の時分に私の隊に小林角藏と云ふ軍曹が居つて、其男は餘程剽輕な男で何時もニコ／＼笑つて居る、行軍でもして草臥れると何時も小林の顏を見ると何か笑はされた、妙な男で私の顏を見ると敬禮をしてキット片目を潰す何か用があつて呼付けると敬禮したと思ふと片目を潰して居る、私はそれだから氣がクサクサする時抔には何時も小林を呼んで來いと云つて呼びにやつたが、其男が或日手に手紙を一ツ握詰めて私の所にやつて來た、小「此手紙を見て下さい、と云ふ、見と口が開いてある、此處で何か又鎌を掛けて笑はせるかと思つたから來「此手紙は何んだい、と云ふと、來「兎に角見て下さい、と云ふ來「今日はどうした片目を、と云ふとハット云つて片目を潰すかと思ふと潰さぬ。

小「兎に角見て下さい、と云ふ、是は何か伏線があつて其後から落すのだらうと思つたから、開けて見ると、其初の文體が「流石は我母は我母なり」と書いてあるそれは小林角藏の弟から來た手紙で「流石我母は我母なり」來「何だ君のお母さんは君のお母さんでなければならぬじやないか、是が何だ、と云ふと小「其先を讀んで呉れ、と云ふ、其先を讀んで見ると私は實に小林角藏より先に泣かざるを得なかつた、それは豫々小林角藏が自分の山形聯隊を出る時に、母にもう一度會ひたいからどうか「ステーション」迄來て下さい「ステーション」迄來ることが出來ぬなれば練兵場迄來て下さいと云つて手紙を出した、態々旅費迄送つて山形の宿屋に着けて置いた、愈々立つ時に母が來て居るだらうと思つて「ステーション」へ往つて見たが、出て居ない、小林角藏不平極まる、何時でも自分のことを杖柱と思ふと言ひながらどうして今日は來て呉れぬか、態々宿屋迄來て呉れと云つて知らして置いたに何故來ないかと思ひながら鐵砲を擔いで見廻し見廻し萬歲萬歲の聲に送られて他の人が汽車に乘る時に氣を付けて見たが、見えないから仕樣がない、田舍の年寄と云ふものはあれ程云ふてやつたに來ないのかと不平であつたが、今日此手紙を讀むと分つた、それはお母さんが其日に宿屋に着いて居つて、送らうと思つて練兵場の入口迄往くと云ふと、澤山の兵隊のお嫁さん、お母さん、姉さん、妹其他の朋友の送つて往く有樣を見ると、送る人も送らるゝ人も皆涙ぐんで居る、お母さんがそれを見ると是はいかぬ、平生杖柱とも思ふ伜を見たならば自分も泣くであらう、角藏も私の泣顏を見たならば其儘出て往くのは辛からう、段々聞いて見ると云ふと今度の戰爭は天子樣も大變大切な戰爭だと仰しやつたと云ふことであるから、萬一私の顏を見て角藏が臆病になつて立派に闘ふことが出來なかつたならば、天子樣に對しても申譯がないと云ふので、練兵場迄往つたお母さんが踵を返して宿屋に歸つた、宿屋に這入ると其儘突伏してワッと聲を揚げて泣いた、其處へ丁度弟が縣廳へ勤めて居つて立寄つた、所がお母さんが泣いて居るから是は無理がない、定めし兄さんに會つたから別を惜んで泣くのだらう無理はないと思つて其儘今日迄默つて居つたが、今日弟さんが見えるとお母さんが角藏に手紙を書いて呉れと云ふことでもう一度や二度は戰爭をしたらうから魂も据つて狂はぬだらう、彼の時にお母さんが送らぬではない、確かにお母さんは送つて往つたが、送る人の顏を見、送らるゝ人の顏を見ると皆涙を流して居る、あれを見ると私も泣かずには居られぬから、其儘私は歸つたのであるどうか此考を以てお前も手柄をして呉れと云ふ手紙を書いて送つて來た、で私はそれを見て成程小林角藏が今日は眞面目で來たと云ふ謂れを知つて愉快で堪まらなかつた、此日清戰爭の時の私の實驗した母、日露戰爭の時に實驗した母は將來貴女方がお成り爲さるものと見なければならぬと思ふ、或は妻となり、姉となるか、今日でも其妹、其友達となつて人を勵ますことの出來るやうになつて欲しい。どうか貴女方も假令今は母でなくても、妻でなくても、此心持を以て姉となり、妹となつて御兄弟を勵まして戴きたいと思ふ、本統の女の力が本統の男を勵ます一番强い力となるものである。（つゞく）

『山脇高等女學校にて』

新案特許 齋藤式 萬年ベル

出入口に取付たる圖　堅牢無比保險

定價　金六拾錢

◎此の萬年ベルは下圖の如く引戸を左右何より開くも戸椽の摩擦によりて發音して出入を報知する至つて便利のものにて屋内の襖障子或は土藏の出入口等に御取付になれば終夜安心して御就眠なさる事が出來ます

◎此の萬年ベルは極めて輕便にして且つ堅牢直段も安く電池の必要もなく又螺旋を卷く手數もありません是非一度御使用を願ます

製造元　東京ケイエム商會

取次販賣到る所の金物雜貨店に有之候

▲改築されたる近江屋伴傳商店　富士印緞

日本橋通一丁目近江屋伴傳商店は德川幕府の創業と共に江戸の草分けとして世に知られたる同店は爾來三百有餘年間同一所に同一營業を繼續し代々の將軍家を始め各大名方の御用達をなし維新以後は帝室の御用命を辱ふし其他陸海軍諸官廳の病院の用達をなしつゝあるは畢竟同店の堅實なる營業振りに因らん是に於て同店は得意の便利を相計らんと欲し且つ時代の要求に應じて從來の營業所を改築し益々營業の擴張を計らんと今回改築せられし店舖は「近世式」の四層大廈にして昨年十月起工爾來七ヶ月日夜兼行にて工事を進め漸く此程落成に近づけり將に巍然として日本橋畔に一大偉觀を添へたり。

會員募集

●入會すれば誰でも歌よみになれます
●會員には無料で點削する設備有ります
●初學者には親切丁寧に敎授致します
●申込み次第規則書送呈す

東京麴町區平河町五丁目十二番地
大日本歌道奬勵會

石黑男爵閣下題辭　石川弘著

最新刊

學校家庭訓話　通俗孝子傳

四六判　三百餘頁　洋裝全一冊　定價金六拾錢　郵料八錢

乾燥無味の孝子傳にあらず骨は實傳に取りて肉は小說的の色彩を施す親に仕へて美人は貧困に泣き父母の病褥に子は其の肉を削ぐ家庭に之を讀まば子女は概然として悔改すべく校堂に之を說かば兒童は爲に泫然たらん圓轉の筆流暢の文一字一涙趣味に富み感興は溢れ正にこれ家庭敎育の好資料普通敎育の好材料！！

東京麴町二丁目二　洛陽堂　發行　振替東京二〇九一四

美顏術實驗有効

化粧水 ライラッグ エメラ

日焦けを防ぎ。色を白くしニキビ、ソバカス吹出物一切治す。

理想的化粧水

東京新橋ライラックエメラー東洋總代理店

理容商會

胃腸新藥

DIGESTIN チゲスチン

顧問　藥學博士 丹波敬三氏　理學博士 齋藤賢道氏

日本 歐米 專賣特許

▲本品は植物性消化酵素にして左の四大特徴を有す (1)彼のヂアスターゼに優り單に澱粉質のみならず諸種の蛋白質殊に吾人の常用する牛乳なも完全に消化吸收するにあり(2)功果偉大にして用量尤も少なし(3)殆んど臭味なく婦人小兒と雖も容易に服用せらる(4)價格は比較的低廉なり

錠劑は卅錠入參拾錢、百錠入九拾錢　粉末、

▲販賣所は各地有名藥店にあり〔尙ほ詳細說明書は東京本町三丁目製造發賣元合資會社圓城商會へ宛御申込次第送呈す〕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

北白川宮殿下

(禁載轉)　桃川如燕謹述

(二) 東叡山裡に勤苦を積み給ふ

さて吉野のお乳に依つて無事に御成長遊ばした宮殿下は既に御七歳にならせられしゆゑ青蓮院尊融法親王に就きて粟田流の書を學びたまひ、佛典を大原三千院の住職に修めたまひて、一度梶井宮の法嗣とならせられましたが、相變らず御勉學、殊に和歌は御天才にて往々大人をさへ驚かさるゝことがありまする。

丁度御齡十三歳の時冬の中旬、御風氣にて暫らく御病床に入らせられ、御課業をも休ませ給ひましたが、昨日今日と思つて居るうち早いものでもう三月の初旬、春風のそよ〳〵と吹く頃となりました、宮には餘り好い天氣にお傳役の後藤因幡守を召させられ『これ〳〵因幡、大分天氣も朗かで閑かで宜いの』後『左樣でございます、御氣分は如何にわたらせれますするか』宮『もう大きに快うなつた、斯く障子を明放ち、庭の景色など眺めると興に乘つて和歌の一つ二つが胸に浮ぶものぢやの、何うぢや、これは……』と傍なる御料紙へ御認めになりましたのが、

埀れ籠めて霞立ちしも知らぬ間に
軒端まちかき鶯の聲

と詠じたまひましたを見て、後藤は『これは御美事でござりまする』と只管感嘆致したと申すことでありまする、

さて宮が十五歳の御時、關東へ御下向、上野輪王寺宮の御附弟にならせられましたが、何しろ上野三十六坊四十九院の結構は實に極樂淨土の七寶壯嚴も斯くやと思はるゝ位、大したものでありました、

宮は此の山内に在して、朝は未明に起出で、讀經に御餘念なく、夜は四境闃たる深更に至つて寢に就きたまひ、精勵刻苦日々の御課業に御怠なく其他出家の法として難行苦行を重ねらるゝには近侍の人人も涙に咽びしことも屢々であつたとのことでございます、いまだお年も若きになか〳〵の御勉學、佛典のうちにも釋迦牟尼世尊が畢世の熱血を注ぎし大乘の極意たる法華經を好ませられ、日々幾十回となく御精讀、又た漢籍は川田剛、中村敬輔(後正直)後藤新九郎(一齋の子)に就て學ばせられ、詩は大沼枕山に削正を命せられ、後輪王寺宮を嗣がせられ下下より上野宮樣と仰がれたまひ、三十六坊の僧侶達よりは能き宮樣を得て實に此上もなき悦びなりと東叡山の座主一品公現親王と稱し奉りて其日を送られ居りました、然るに慶應の四年と云へば御承知の如く明治御維新の年でありまして、德川十五代將軍慶喜公は大政を奉還し、引續きて伏見鳥羽の戰爭起り、人々安き心もなく、正月七日慶喜公は大阪の城を忍び出て、開陽丸に召されて江戸へと歸られたが、謹愼の意を表せんが爲めに直ちに上野大慈院へと退かれた、それを聞し召されたるところの輪王寺宮に於かせられては、イト哀れなることに思召されて、宮樣御附の役僧覺王院、龍王院の兩人を御招きになり宮『如何に兩人、前の將軍慶喜には伏見鳥羽の戰ひにて朝敵の汚名を受くると云ふことになりつる由なるが、不憫の者よ、兎に角面會を遂げ、彼の罪御赦免を朝廷へ願ふであらう』と云ふお言葉、其事を早速に覺王院より慶喜公にお告げ遊ばした故、慶喜公御涙を浮ばせられ慶『我心を知るものは天下のうちに唯輪王寺宮樣のみである』と大層にお悦びになり、やがて覺王院、龍王院に誘はれまして宮の御前へと來つて御挨拶に及ばれた、宮樣も御會釋遊ざれまして宮『如何にお事に於かれては、此度朝敵の汚名を受けつるとか、伏見鳥羽の戰爭もありつる趣なれど、こはお事の關知らざることなりと聞く、誠に以て氣の毒の至りぢや』覺王院も傍らより『宮樣御幼少なれど御發明にゐらせられまするは我等一同唯々恐入るの外ござらん、德川家もはや十五代となり其間無事に世を治めし功績も尠なからざるに、時勢とは言ひながら朝敵の汚名を蒙むられ、官軍は錦旗を飜へして關東へ攻め來らるゝ趣之れにつき實は宮樣より此の覺王院へ御沙汰あり、宮樣御自身にて駿府にお出で遊ばし、大總督有栖川宮へ御面會、關東に他意なきを告げさせられんとの難有き思召、何と御貴殿よりも宜く御願ひ致して然るべきかと存ずる』宮『覺王院の申す如くお事の爲めに公現、駿州に至り、大總督宮に面會なし、お事の罪なきを物語るべければ、構へて過ちいたし給ふな、無謀の事致し給ふなよ』此時慶喜公ハラ〳〵と涙を浮べたまひ『宜しく願ひ入る』とあつて是れより種々世上の御話などあつて慶喜公は退出され、宮樣に於かせられては早速御支度あり、覺王院大僧正外四五人の從者を召連れられ、駿府へ其出立、慶喜公の爲めに大總督宮へ御哀願に相成る一條より、後上野戰爭の時は三河島に逃がれられ、農家の物置へ忍びたもふこと、百姓長兵衞の女房おなみの厚き介抱を受させらるゝ顚末、追々申上ます。(つゞく)

● 正誤：前號に堀口女房とあるは堀内女房の誤に付き正誤す

凱旋サイダー

◎天賞堂の寶石指環大廉賣

◎昨今天賞堂にて賣出したる『ダイヤモンド』入指環は同店の歐米特派員等が白耳義國アントワープにて監督加工せしめたる品質優良の多數寶石中特に精選を遂げ同店工場に於て新流行の指環の嵌裝せしものにて最低價格拾五圓より貳百圓迄八種廿四類此總額九萬貳千五百圓を限り本月卅一日迄空前無比の大廉賣をなし購客の嗜好に依りては自由に指環模樣の變形製作にも應ずるよし猶目下中元季節に入り贈答用として價壹圓以上の體裁優美なる諸品なども販賣する由なり

○縮毛矯正藥發見

香油界專賣特許の嚆矢

東京市本鄕區東片町十五市原てふ子(二十五)は舊紐育生命保險兵庫代理店員市原六三郞氏の妻女なるが同女は性來頭髮の赤縮れなるをいたく苦にし種々なる藥方法を用ひ是が矯正に務めたるも一も滿足するものなかりき。然るに偶〻或る樹脂より一種の藥劑を發見し純粹の椿油を加へ更に香料を入れて一種の頭髮香油を作り之を試みたるに、赤き頭髮は黑色と變じ、光澤を增し縮れは直りて眞の美髮となりたるより、同女は一日も早く之を世に公にして、心を苦しめつゝある諸孃を救ふも亦世に處するの道ならめとて直に良人に計りエンゼル香油と命名し專賣特許第一五五六七の特許を得たり玆に於て同女は尙衞生試驗所長田原藥學博士に分析を乞ひたるに證明を與へられ後に樞密顧問官子爵清浦圭吾、工業試驗所長工學博士高山甚太郎、同工學博士三山喜三郞、美術學校教授千頭庸哉氏等の有功證明を得て其の確實なるを立證し十分なる研究と注意を以て先頃之を發表し頗る醜毛者の賞讚を博しつゝあり詳細を知らんとするものは返信料を添へ東京本鄕東片町十五エンゼル商會に申込まるべし。尙同女は醜毛者の根跡を絕たしめんため多大の利益と權利とを割與して各方面に特約販賣者を募集中なり。

◎子供の出來ない人に

婦人病を病む人と病まれる人の難義を救ふ何うして難義を救ふのか男女にかゝはらす一度尋ねて御覽なさい此の事に就きましては私迄三代も研究して居ります御遠方の御方や御出の出來ない御方ははがきにて子供は何うすれば出來るのかと書いて東京市本所區橫田友治として出して御覽なさい

さうすれば婦人病の治る事と子供の出來る譯を公益の爲めに無料にて詳しく御知らせ致します、此の樣な事を申したら御疑ひもありましやうが、何せよはがき代ですから聞くは一時、聞かぬは末代もし御出になる御方は橫網町二の十八石原電車停留所前です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

應募和歌　首夏

佐々木先生選

天　岡山縣　森島古野子

衣更てむかふまどへのすかたみに庭の若葉の影もうつりぬ

（評）初夏の感しよくあらはれてうつくしき歌。

地　福島縣柳津　長谷川吉野

夏の神銀の笛ふきさみどりの裳すそなびかし湖渡りくる

人　三河田原町　山内經子

初夏や丘にのほれははてもなくたゝまさをなり廣き裾野は

佳作

みどりこき若葉くゝりてさら〳〵とおつるかけひの音なつかしき　三河　山内經子

古里の青葉の蔭そなつかしき都になれぬ夏のはしめに　豐橋　みどり子

あやめさく池のほとりのやすみやのすたれに夏のかせ通ふなり　赤坂　清水まつ子

ぬきかへしきぬはかりかは野も山もみどりすゝしき初夏のいろ　豐橋　平松いと子

茶摘女のうたおくり來る山裾のむき畑わたるはつ夏の風　石巻　吉田とき子

雨そゝく夏の緑のよろこはしなにとはなしにこゝろうるほふ　尾張　土川保子

古き代のしろかねの盾まほろしの日にそきらめく初夏の水　豐後　春川雪子

朝風に昨日の春のゆめさめてこかけこひしき夏はきにけり　廣島　春の月

山里は青葉となりし今日なれとなく鶯は春にかわらぬ　仝　不知道子

またなくになつはきにけり袖かろき衣にいさやぬきかへてまし　名古屋　野村なか子

なつころもまとひしよもの山みれはすか〳〵しくもおもほゆるかな　同　同人

ふさ〳〵と柳たれこむ漁り家の門にたゝすむ夏は來にけり　神田　宮崎うら子

旅こゝろやゝ薄らきて都より歸る人待つ夏のはしめに　同　伊藤みの子

紫のゆかりの藤のさきそめてなく音またるゝ山郭公　遠江　相羽操子

蟬の聲初めて聞し昨日今日ふき來る風の心ちよきかな　同　相羽夏子

ちるはなにうらみし風のおもしろくわかはをそよく夏は來にけり　千葉　石原たみ子

いつこまて春はいにけんくれはてゝ青葉涼しき三日月のかけ　常陸　大曾根みつ子

時鳥さくよしもかな初夏を史蹟に認む山の岨道　愛知　岡部廣子

夕月の宿にも嬉しうす衣起居すゝしき心地こそすれ　岩手　千葉さとみ子

見し春の名殘やいつち庭の面の木末はなくて夏めきにけり　大阪　室谷ひさ子

桃さくらみな若葉して花に訪ひし友の家さへまとはれにけり　芝　土師利根子

花のさく春もよけれとなつ山の青葉のかけはことになつかし　京都　難波長久子

若竹はすく〳〵のひてわか庵も夏のはしめの風そかよへる　横濱　鈴木まつ子

ほそなかれあやめも咲て小山田もなかめすゝしき夏は來にけり　同　同人

磯山は若葉しけりて夏衣ふく汐風の心地よきかな　丹後　吉村千代子

里川の流にのそむ一つ家になつかしらする藤浪の花　同　吉田とも子

花ちりて夏は來にけりうぐひすのふるすやいかにわびしかるらん　大邱　高芝とらを子

うかれにし花も時をもうつろひて青葉色とる夏は來にけり　廣島　重岡冬子

雨晴れて竹のはやしに吹風の今朝より夏の心地こそすれ　兵庫　三畑たか子

鰹とる舟を送りて海の幸を祈る浦邊になくほとゝきす　日本橋　神崎久眞子

流れ行く星を見たりと子とも等の聲さわかしき初夏の夕　麻布　濱子

花の香にそみし衣をぬきかへて山は青葉にあらたまりけり　小石川　ふゆ子

朝あらし靜になりてはつなつのそらのみとりのうつくしきかな　岩手　渡邊豐惠子

丸まとにすゝしき姿見えそめて竹の下いほ風わたるなり　岡山　西村清子

昨日まてめてし櫻も花ちりて青葉涼しき夏は來にけり　同　西村長子

たちこむる霞も今朝はきえはてゝ山は若葉にうすみとりなり　山口　藤井かめ子

ほとゝきす初音うれしき朝月くれは袖垣しろく卯の花も咲き　日向　岩手房子

山櫻さき殘れとも萠えわたる若葉の色に夏は見えけり　丹後　石田幸子

有明の月のいろにもほとゝきすはつれまたるゝ夏はきにけり　同　松浦珠美子

うくひすもふるすにかへるけふよりはわかよらしくもはつせみのなく　兵庫　岡田芳子

花くれて春の別れを忍ひ庭の歩路にいつか聞く時鳥　靜岡　竹內幸子

鎌倉や白衣の僧のたつほとり日こと色ます夏木立かな　横濱　小笠原はつ子

▲愛國文苑▼

⊙和歌　閑居立秋（八月廿五日締切）野草花（八月廿五日締切）　坂正臣先生選

⊙和歌　夏野（七月廿五日〆切）涼風入簾（七月廿五日〆切）　佐々木信綱先生選

⊙俳句　行水、蚊帳、瓜（七月廿五日〆切）　盂蘭盆、夕顏花、土用干、青田（八月十日〆切）　內藤鳴雪先生選

▲愛國文苑▼

●外國米の食べ方

日本女子商業學校にては過日來外國米の食べ方に就て研究をなし其結果を印刷に附し約五萬枚を汎く分與したるが其炊き方左の如し。

一、お米は前日からといで水につけて置きまして夕方に水をきつて翌朝炊きます。

一、外國米ばかり炊きます場合には糠のにほひを消すために其中に酢か味噌を少々入れて炊きます又しやうがの葉を用ひても宜しうございます。

（酢はお米一升に付茶さじ一杯位味噌もよくすりて同じ分量、しやうがの葉は二三葉）

一、左の割合で炊きますれば殆んど內地米と同じ様に食べられます。

（い）外國米五合　白米一升

（ろ）外國米五合　白米一升　麥五合

（は）外國米一升　餅米三合　小豆適當

小豆の御飯は大變加減よく出來ます。

（に）外國米七合　餅米三合（餅米は臺灣產の方がよし）

外國米と麥の混炊は味は少しまずうございますが左の割合に致します。

（ほ）外國米七合　麥三合

一、凡て外國米を炊きますには水の分量を普通より一升に付二合程增します。

一、外國米を食べますには成るべく副食物を鹽からくして食べなければなりませぬ、胡麻鹽は食養法の上からも經濟の點からも最も宜しうございます。

官許　家傳靈藥　乳の出る藥　いかなるちゝにても出る事神妙なり　定價一週分三十五錢　送料四錢　金婚正宗發賣元　東京市神田區美土代町二丁目　豐島屋本店　電話本局三八八〇　三八八一番

金線サイダー　お客さご云へば　一に座蒲團　二に金線サイダー　此れならば安心して人にも勸める事が出來飲む事が出來ます

かつけ必治散　一劑壹圓　一名カツケ一ぷく藥は　脚氣病一切の特效藥　二十五年間實驗し　效力最も顯著なり　先一劑を試みよ　各地賣藥店にあり　なきときは本舖へ

登錄商標　本舖　東京牛込南町廿五　必治藥園　（振替東京[illegible]）

小兒に宇津の救命丸　小兒虫氣癇一切の良藥

藥價　十二錢　廿四錢　卅五錢　五十錢　一圓　貳圓　本舖　下野國盬谷郡高根澤　宇津本店　東京麴町區飯田町四ノ七　宇津出張所

二條公爵夫人題辭　嘉悅孝子著　賜天覽　賜台覽　再版　女四書評釋　橋口五葉畫伯裝釘頗美本　上製天地金帙入定價壹圓　並製函入　定價六十錢　東京麴町區土手三番町　日本女子商業學校出版部　電話番町二一二七　振東一七〇七七

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鯉の裁判

（四）　細川風谷講演

此の樣子を向ふから見て居た久五郎 久『何を言つてるんだ、仲の好い夫婦が喧嘩アして居るのも可怪いが時々久五郎〳〵と言つて居やアがる、俺の知つた事ぢやアあるめえ』と氣になつて耐りませんから聽ての事、下駄を引掛けて遣つて參り久『喧嘩アするたア何の事だ、日頃にも似合ねへぢアねへか 淸『喧嘩アして居る譯ぢやアねへんだ、原因を糺せばお前ゆゑだ 久『俺故だ：：時々可怪い聲で久五郎〳〵つて言ふから變だと思つた、一體何うしたんだい 淸『斯う〳〵斯う言ふ譯だ、此事と言ふのもお前が紛失るやう〳〵と禱つたんだらう 久『串戲た事を言つちやアいけねへぜ、俺が幾ら閑人だつて人の金の紛失るやうに禱りやアしねへ、だが段々聽て見ると芽出度ナ 淸『何が芽出度：：人の金が紛失つて：：久『芽出度ぢやアねへか、お前が落ちりやアお陀佛だ、十兩の金がお前の代りに近江の湖水へ身を投げて吳れたんだから芽出度ぢやアねへか 淸『私ア金が落ちないで自分が落ちた方が好い 久『くだらねへ事を言ちやアいけねへよ、自分が落ちて死んで仕舞つたら誰が其金を取るんだ：：ナニッ：：何うしても死にてい、命遣えの荒い男だナ、併し自分が死にていと言ふのを强て生て居て吳れと俺が賴んだつて仕方がねへが命を捨る事や芝居などは日延に限るせ、夫婦で今晚とつくり相談して、愈々死ぬと極つたら夫婦は同體、二人死んで仕舞うが好いぢやアねへか、「さう極つたら友達の情誼だ人手は借りねえ俺が近江の湖水へつれて行つて突落してやらうぢアねへか、とつくり今晚相談するが宜からう』と久五郎は其儘宅へ歸りましたが、氣になつて耐りませんから翌朝淸兵衞の宅へやつて參りますと、夫婦が悄然として坐つて居る樣子 久『エーお早やう： 淸『お早やう、久『何うだい極めたかい 淸『お庇樣で夫婦が寢る目も寢ずに相談して極めたよ 久『ソレ見ろだから言はねへ事ぢやアねへ、人間と云ふ者はナ、死にていと云ふ量見と命が惜い量見はぢきに變るものだ、コー芽出度事があるんだ、俺の處へ今朝早く酒を持て來た奴がある、夫を一つ燗を付けやうぢやアねへか、さうしてお前達二人も客にしやう、今日は一日酒でも飲で氣分を霽して明日から稼ぎ直すが宜いよ、一旦溜つた金だ又溜らねへと云ふ理窟はねへ、灰吹だの金だのは溜ると相場が極つたもんだ、人樣の金を預つて紛失したと云ふなら、申譯がねへから死ぬと云ふ事もあらう、天下晴れて金を溜めて天下晴れて落としたんだ何も不思議はねへ 淸『そりやアお前さんは不思議が無からうが、此方には不思議があるんだ。第一話が違ふよ 久『何う違ふんだい 淸『夫婦で昨宵とつくり相談して、お前さんがそんなに親切に言つて吳れるから突落して貰はうと極めたよ 久『詰らねへ事を極めやアがつたナ、夫ぢやア、矢張死ぬのかい 淸『ソロ〳〵出掛やうか 久『まア待ちねへ、仕樣がねへナ。

折柄入つて來る一人の魚屋、久五郎の顏を見て ○『オイ親方、魚ア買て吳れ 久『ナニッ：：魚：：手前の盤臺に活た魚ア居た事がねへぢやアねへか ○『ピン〳〵躍つて居るんだい 久『躍つてるッ、何を持つて來た ○『鯉：：出世魚だせ 久『串戲た事を言ふねへ、手前に聞かなくつても鯉が出世魚位ゐの事は知つてらア見せろ〳〵：：オー恐ろしい大きな鯉を持て來やアがつたナ、幾許だい ○『一分：：親方一本槍だ：：久『珍らしい事のあるものだナ、手前の盤臺に活きた魚、夫が而も恐しく大きくて一分とは妙だ、待て〳〵：：オイ嬶ア見たか』女房が向ふから首を出して『見たよ 久『廉いぢやアねへか ○『本當に廉いから感心して居るんだよ 久『感心して居るなら買いねえな ○『考へてるんだよ 久『考へる事アねへぢやアねへか、廉くつて感心すりやア貰ふと相場が極つてらア、何を考へて居やアがるんだい ○『お前さん大層な事を言つたつてね、一分で鯉を買て仕舞ふと一文も宅にお錢が無くなるから考へるんだよ 久『こいつは成程考へたナ、さうか：：だが廉いナ ○『本當に廉いね 久『買ちまわうか ○『買ちまわうか 久『買ちめへ』（つゞく）

熱い〳〵とおつしやる時の外出には前年來好評の

アンダーベルト

汗除帯

中元暑中

御進物用最適品

直段壹枚七拾五錢ヨリ各種有之候

東京販賣所　三越　白木屋　松屋　松坂屋

直輸製造元　東京新橋　關口洋品店

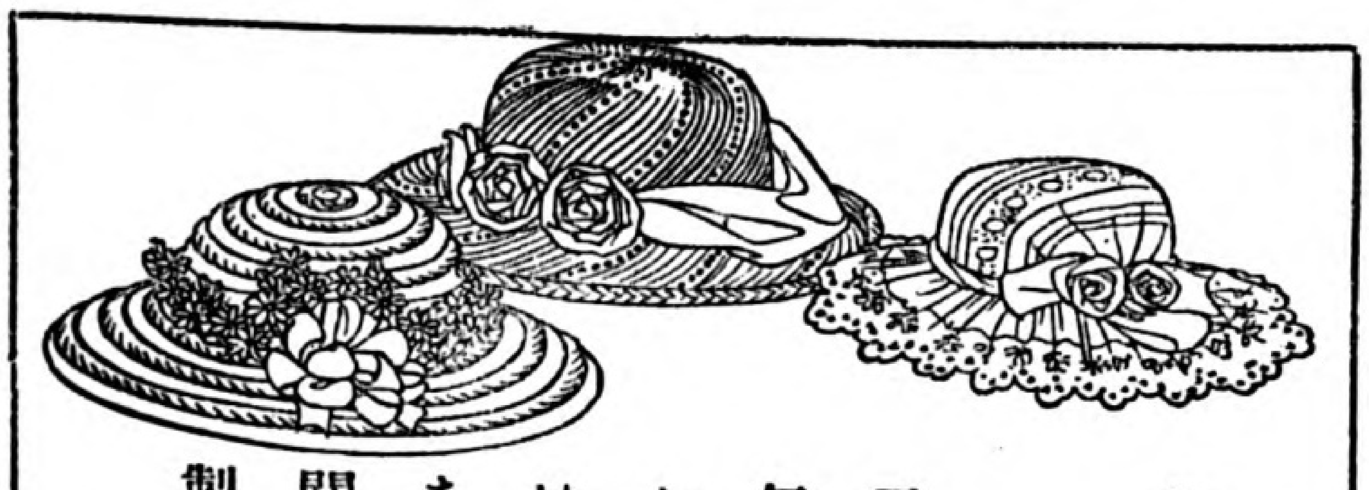
電新二九〇二番　振替八〇九三番

横濱　鶴屋吳服店　相模屋

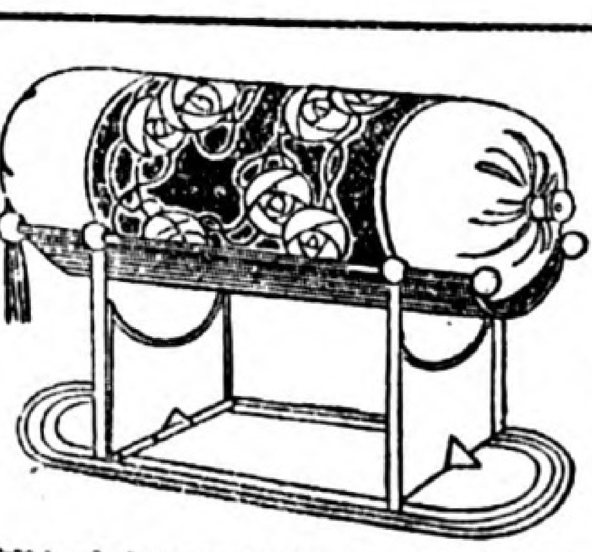
名古屋　伊藤吳服店

大阪　三越　高島屋

今ハヤリの子供帽子で氣の利いたお安いものはと問ふ人あらば關口洋品店製品と御答する



家庭用旅行用 空氣眞小枕



其の具合非常によろしく避暑旅行又は御婚禮御祝物及び中元進物に適品

一組金壹圓三十錢

空氣眞小枕　金五十五錢

ニッケル製折疊枕臺　金七十五錢

ソバカスクリーム

ステールマン會社のフレックルクリームは御婦人方へソバカスの汚點を除く確實なクリームとして常に信用を第一に發賣して居ります此クリームの御使用法は極めて容易で御臥床の時に汚點の部分へ能く塗り込み御起床を待つて石鹼で洗ひ落すのでございます

壹個壹圓廿五錢

附屬洗面用石鹼 コンプレッキション 壹個七十五錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

料理いろ〳〵

▲葱鮪　脂肪氣ある鮪を五分程の賽形に切り、直に鍋に入れ、ザット煮置き、葱を水にて洗ひ、一寸程の長さに切り、鍋に入れ、前の鮪を其上に敷き、少しの砂糖を加へ、ザット煮込みて鍋を下ろし小皿に盛り、粉山椒をふりかけて出す。

▲あゆの鹽燒　あゆを鹽水にて洗ひ、兩面より薄鹽をあて、二十分間置き、串にさし一寸水洗ひして水氣をふきとり、表に化粧鹽をふり、表より凡そ三分間燒き、又返して五分位燒く。

▲シラスボシの吸物　材料を手早く水にて洗ひ、すいのうにとり、能く水氣を去り、直に椀に盛り上より製り置ける清汁を注ぎ込み、吸口には陳皮そぎ柚揉み海苔など添ふべし。

▲蒲燒あなご　あなごを背裂きにして中骨を去り、頭を切り落し、手早く水洗ひし、皮目を先に金網にて二分間燒き、返して後蒲燒汁をつけ一分間燒き、之を三度行ふ、後器にもりて用ふ、蒲燒汁はあなごの頭に煮出五勺程入れ、五分位煮出し、醤油五勺砂糖二勺入れ、又五分間煮つめて、頭を除きて用ふ。

▲源氏　小椎茸を水洗ひして五分間ゆで、甘煮に仕立て、根を切り捨てゝ置く、外に車海老の頭をすて背腸をぬぎ、一寸しもなりをなし、海老六十に對する煮出し五勺、砂糖三勺、鹽三匁、醤油半勺落し蓋にて八分間位煮て一寸冷やし、皮をむき、縦二つに切りはなし、汁をつけて以前の椎茸に合せ、三つ以上五つ位用ふ。キヤベツは心の硬き處を切り捨て、横より小口に細かに切りはなし、湯を煮立たせ、其中に入れ、三分間ゆで、笊に上げ、水氣をしぼり、大きな器に入れ、砂糖五勺、酢一合五勺、鹽三匁を混ぜ、一時間以上置きて用ふ、みぢん生姜を酢と共に混ぜて用ふるも可し。

凱旋サイダー

かや夏ぶとん　夜具
や
電車は駿河臺下東明館前にて御下車神田表神保町
矢田商店
電話本局二〇一八
市内無賃配達

中元御進物によく又避暑に必要
實用新案登錄第二三一一七號
男女兼用
ナイトドレッス
(一名寢冷知ラズ)
婦人洋服地類及附屬品並ニ裁縫一式

號數		キヤラコ	イタリヤ	メリヤス	セル	本ネル
十四歳迄	一號	一・二〇	一・三〇	二・〇〇	一・七五	三・二〇
十二歳迄	二號	〇・九〇	一・〇五	一・七〇	一・五〇	二・八五
八歳迄	三號	〇・八〇	〇・九五	一・四五	一・三〇	二・三五
六歳迄	四號	〇・七〇	〇・八五	一・二五	一・一五	二・一五
四歳迄	五號	〇・六五	〇・七五	一・〇五	一・〇〇	一・九〇

送料割引券　臺灣樺太朝鮮半額　內地無料
製造元　東京市本郷區眞砂町大通　大河内婦人洋服店　電話下谷五二八　振替東京八三七二
特約販賣店　三越呉服店、白木屋呉服店、いとう呉服店(新橋)、關口洋品店、名古屋いとう、桔梗屋呉服店、福岡渡邊洋品店

無乳産婦の福音ラクダゴール
LACTAGOL
本劑はベルツクマン博士に據りて報告せられたる無臭無味毫も副作用なく蛋白質及脂肪質の多量を含有する乳汁を分秘せしむる新藥にして本邦にては「ドクトル千秋雄雌郎氏」に據りて數多の患者に使用せられ其の症に由りては服用の初日に於て其効能を發揮し他の場合にても七八日間連服せしむれば完全に奏効す
一日用量十五瓦にして百瓦入壹函參圓
(用法容易)ドクトル千秋の報告印刷物御要求に従ひ無代進呈
東京市日本橋區本石町三丁目
藥種問屋　中村瀧次郎
振替貯金口座東京九四三番　電話本局(長七六九番　三五六九番)

ダイヤモンド入金指環
八大均一廉賣
廉賣期間本月卅一日限
▲自二十二號至二十四號　價拾五圓均一……三百個限
▲自十九號至二十一號　價貳拾五圓均一……三百個限
▲自十六號至十八號　價參拾五圓均一……三百個限
▲自十三號至十五號　價五拾圓均一……二百個限
▲自十號至十二號　價七拾五圓均一……二百個限
▲自七號至九號　價壹百圓均一……壹百個限
▲自四號至六號　價百五拾圓均一……壹百個限
▲自一號至三號　價貳百圓均一……壹百個限
合計價格九萬貳千五百圓
本品は本堂の歐米特派員等が白耳義國アントワープに於て特に監督加工せしめたる多數寶石中其一斑を示したるに過ぎず品質優良にして價格の低廉なるは曾て比類なき所冀くは愛顧諸君當期間中續々御來觀御用命あらんことを
八大均一廉賣
廉賣期間本月卅一日限
東京市尾張町　天賞堂本店
(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24)

中元御進物用諸品
價壹圓位より體裁優美

齒科診療
神田區淡路町二丁目七番地岩崎邸坂下(電本四二六七)
本山幸三郎
分院　栃木縣足利町　電話(足利三五六)

凱旋サイダー

高尚優美にして價は廉
愛國帶
一筋　貳圓拾錢
愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛讀者諸君へ謹告

▲新聞の代金[illegible]月七錢であります。此代金は四月、七月、十一月の三回に御請求致します。其の手續きは郵便はがき又は集金人を差出します。其外都合に依りては郵便局に委託し請求致す事もあります。此の代金を御送りにな[illegible]便貿もいりませんから御便利でございます。但振替で御送金になる時は、拂込口座登記料として金一錢必らず御添へを願ます。

▲[illegible]日の御參考に御保存願ひます。

▲郵便切手で御註文又は御送金の節は必らず一割増に願ひ上げます。

▲愛國婦人發行所の振替口座番號は毎號新聞東京一一三八一番であります。

▲お手紙の御住所御姓名は明瞭にお認め下さい御轉居の節は、必らず新舊御住所御認めを願ひます。

愛國婦人發行所

内科一般 午前宅診 午後往診 **板垣亨**
東京神田區美土代町三丁目十七番地
電話本局貳千九百七拾番

内田病院 淺草新福井町二（死町停留場際）
事務用電話下谷七一八
病室用電話下谷四八三八
病室落成に付隨時入院の需めに應ず
●小兒科專門 午後診察
院長 醫學士 内田愼太郎
副院長 醫學士 瀧原五郎 副院長擔任

◎産科婦人科 **櫻井克巳**
芝明舟町十九虎門外
電話芝二六四二番

小兒科 醫學士 **石塚保吉**
赤坂區青山南町三丁目
電話芝三四七四番

内科診察 宅診午前及夜間九時迄 往診午後
醫學士 **中山敏樹**
麹町區四番町四番地（電話番町貳三八四）

腦神經精神病
東京赤坂 帝國腦病院改 **青山腦病院**
院長 ドクトル メヂチーネ 齋藤紀一
專門 醫學士 三名
在歐 特長 田澤醫學士
電芝二七四五 電芝二六六五 電芝三四〇六

小兒科醫院
本院 四谷區西信濃町十四番地（電話番町八七四）
宅診午前中 入院應需
院長 醫學士 川村正治
副院長 醫學士 川村信一
分院 芝區西久保巴町四十五番地（電話芝二〇八六）
宅診自午後二時

榎本齒科醫院
神田駿河臺（戸田伯爵邸西隣）
電本二一二五 院長 榎本積一

齒科診療
毎日自午前八時至午後五時（但シ十五日廿八日休診）
石川齒科醫院
芝區烏森町一番地
電話新橋一九二〇

婦人科産科 榊病院
醫學博士 榊順次郎 毎日午前診察
醫學士 久保德太郎 日曜水曜午後婦人科的外科
醫學士 田代謹二 火木土曜日午後泌尿器病及内科
醫學士 石塚保吉 水土曜日午後小兒科
●施療火木土午後自一時至二時
●施療姙婦産婦ヲ取扱フ
麹町區三番町三三（電話番町三〇三三）

産科婦人科 天本醫院
下谷區仲徒町二丁目卅五番地
院長 醫學士 天本治（入院隨意）
（電話下谷二六六九）

◎**木村病院** 婦人科産科
院長 ドクトル 木村順吉
次長 醫學士 福田康甫
京橋八丁堀一丁目角
電京一六七〇番

濱町病院 産科婦人科
日本橋區濱町三丁目七番地
電話浪花一六〇番 同長一六一番
院長 醫學士 小林八十七
醫學士 大瀬貴明
醫學士 佐野綱次郎

◎産科。婦人科
◎内科。小兒科
森種太郎
小石川西江戸川二六
電話番町（一四二六）

…（診察時間）…
月、水、金午前 橋爪病院（日本橋區龜島町一の廿九）
毎日二時ヨリ五時迄 自宅（本郷區眞砂町十五番地）
○産科、婦人科 入院應需
醫學士 **橋爪哲造**
（浪花二六〇番）（下谷二四八七）

内科 一般 殊に（肋膜炎、腎臟炎、胃、腸、肝臟病）
醫學士 **村松平次郎**
神田區表神保町六（電本一四五二番）

腦神經精神病科
加命堂腦病院
東京龜戸町電話本所二五五二

東京勸業博覽會二等賞牌受領

清涼足袋

○清涼足袋は實に名詮自稱の如く盛夏用に好案調製せしものなれば工合最もよろし
○清涼足袋は油足の方に最もよく夏用足袋として總ての點に於て具備せし逸品なり

都足袋粹乃友

白紺 羽二重足袋

○羽二重足袋は外觀内容共に美麗にして一般社交界の好評を蒙れり
○羽二重足袋は御婚禮其他御儀式履きに缺くべからざる必要品なり
○羽二重足袋は衣裳の裾を傷めざるは勿論裾捌き最もよろし

○都足袋は曩に農商務省に出願して登録商標專用權を得たる物なり
○都足袋は外觀優雅にして現に都人粹士の歡迎を受けつゝあり
○都足袋は踵に縫目なく衣服の裾を傷ふことなし
○都足袋は製作に至大の注意を拂へり故に履具合良好にして縫目破綻の憂なし
○都足袋の材料最も優逸にして經濟上尠なからざる効力を有せり

各種足袋調進所

龜屋

地方よりの御注文は代金引換小包拾足以上は送料自店持にて御送品申上候

東京日本橋室町三丁目
龜屋 宮内清兵衞
電話本局一七一二二番
振替東京一二三四六番

水晶おしろい

すきとうりたる水にて付ると白くなる流行の薄化粧料にして目立ぬ故男子まも用ひられる

定價 五拾錢 貳拾五錢 拾五錢

本舗 東京 大和屋

◉くせ

御婦人方の最も大切な髪にくせのある方やはらかでふくれない方、赤毛で困る方は此竹の露をお試し下さい。

此品は順天堂佐藤病院病理檢査員たる田中先生が或るやんごとなき方へ献上の目的で調製せられたものを今回發賣するのであるから有効無害は勿論ふけもとれつやが出て見違へる程綺麗な髪になります

定價一瓶金三十錢送料八錢半打以上は市内配達致し升地方は送料不要

●取次販賣希望の方は本舗へ御照會あれ

東京市本郷區東竹町二六 電話下谷二二五二三番 春霞堂

宮内大臣御書

濟生とは赤十字院長橋本子爵處方の救世丸宮内省侍醫岩佐男爵處方壯婦丸に宮中各親王殿下より賜はりたる御沙汰書に添えて更に渡邊宮内大臣より濟生の實を完ふすべしとの御趣旨を以て御下附されたるものなり兩劑の光榮と其確實なるを證するに餘あり

救世丸「錠劑」消化不良又は慢性胃腸病と雖も必ず全治す殊に諸結核病後の衰弱等其他滋養劑として特効あり

壯婦丸は婦人血の道月經不調、ヒステリー、氣欝、めまい、動悸、逆上、産前産後等に最上の良藥にして又頭痛、不眠、便秘、神經衰弱等には男女共に偉効あり

○濟生兩藥價試用十錢四日卅錢十日七十錢廿日一圓卅錢卅日一圓八拾錢

○會員の爲め愛國婦人發行所にて取次す

本舗 東京深川公園 **福井堂** 電話本所五六九 振替二三六六

○取次は本舗又は各特約店へ申込れたし

◎本劑は愛國婦人發行所に於て會員諸君には特に便宜を圖り一割引にて取扱可申候

中元と粹な御履物

(遠方ハ代金引換小包ニテ御送リ申上候)

東京市新橋南佐柄木町角 **會津履物店** 電話新橋一〇三五番

すいな ゆかた地
めりんす友仙
御中元向品々

東京人形町通よし町 赤のれん おむなや本店 電話浪花四三四五番

中元進物にも又御婦人の避暑に必要

◎新案登録 **都はり箱**

都はり箱は體裁圖の如く中を仕切り其内に起伏伸縮自在なる金屬製の裄臺を取付け箱は底より踏板の出る裝置にして又五色の絲は自動的に廻轉し、はさみ、こて、へら、二つ尺度、つま形、そで形、針、針差し、指貫に至る迄裁縫具が一切入れて有りますれば御婦人方の避暑旅行の御携帶に頗る便利で又御孃樣方の學校携帶家庭敎育用として重寶なるが故最も高貴のお方の御買上を賜りたれば各位幸に一個を購ひ膝下に置れん事を希ふ

定價
- 漆塗金蒔繪特製 金貳圓五十錢
- 同 上製 金貳圓
- 神代杉金文字入上 金壹圓五十錢
- 同 金壹圓
- クロース洋本 金壹圓

郵税市内無料外拾貳錢臺清朝樺太四十錢代金引替十錢增し郵劵一割增し

製造發賣元 東京市淺草區西三筋町四十三番地 振替東京第二一五七六番 **安井都堂**

賣捌 三越 白木 發明館 博品館 日本便達社 其他文具店にあり

御扇子

愛國婦人會御用達

京都寺町五條下ル東側 御影堂 **持阿彌**

苟も美容たらんと欲する諸姉は先づ

ラーロラ

BEETHAM'S La-rola

を愛用せざるべからず

此化粧用美容劑は日光、風、硬水に堪へる樣皮膚を保ち日焦アセモ、アレ赤顏ソバカス等を防ぐに尤も妙にして且皮膚を柔かく滑かに色白く若々しくす四季を通じて用ふれば常に美しき皮膚を保ち得らるべし

M. BEETHAM AND SON.
CHELTENHAM, ENGLAND.

製造所 英國セルテンハム、エム、ビーサム、エンド、サン商會

各地著名の化粧品店にて賣捌く

毛生液

はげ頭病、禿其他 脫毛、薄毛、生際惡き人 試よ

本劑は第一毛をはやしぬけ毛を止め髮毛はへぎは眉毛髭等の薄きを濃く生じ

の皮膚病でき物跡其他毛根のある所毛なきに用て毛はへる事請合

●藥價 卅錢、五十錢、特製一圓、二圓送料四錢

本舗 東京馬喰町二丁目 支店 大阪平野町一丁目 山崎榮三郎

賣捌全國藥店化粧品店に有◎にせ物御注意乞

東京市日本橋區通一丁目

合名會社 **森村銀行**

電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番

- 定期預金 六ヶ月 年五分
- 當座預金 百圓に付 日歩七厘
- 特別當座預金 同 日歩一錢一厘

資本金千八百萬圓

東京京橋區木挽町 株式會社 **十五銀行**

電話 新橋 一、五三〇番 一、五二九〇番 一、五二〇番 一、五三一番 一、五三二番

同 日本橋區新乘物町

同 **日本橋支店**

電話 浪花 一、九〇一番 一、九〇二番 一、九〇三番

- 一定期預金 六ヶ月以上年五分
- 一當座預金 日歩七厘
- 一特別當座預金 同 壹錢

愛國婦人廣告取扱
神田三河町一ノ一九 博報堂
京橋區宗十郎町一七 正路喜社
愛國婦人海外廣告一手取扱
京橋區南槇町七 ……社
京橋區南紺屋町一 一星社
神戸市元居留地仲町三八 東洋廣告取次會社
神田須田町十七 金蘭社
京橋區 廣告社

(毎月二回、一日十五日發行)
▲定價一部金三錢五厘(郵送料共)一ヶ月金七錢
ノ廣告料一行金六十錢
●電話(番町一五二〇番 同 一七四五番)
●振替口座 東京第二三八一番
發行人 八田一精
編輯兼印刷人 竹內貞三
發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所
印刷所 東京小石川區久堅町 博文館印刷所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會會報

本部記事

●職員囑託

山形支部長（七月三日囑託）　正五位　小田切もと子
山形支部顧問（同）　小田切盤太郎
山口支部長（同）　従四位　馬淵よし子
山口支部顧問（同）　馬淵鋭太郎

●有功章贈與

金百五十圓寄附に依り二等有功章贈與
秋田支部　押切きくの子

秋田支部　大縄たみ子
同　近藤ちか子
同　渡邊きく子
同　平川やす子
同　七尾じゆん子
同　片野とめ子
同　安田かね子
同　廣瀬りつ子
同　近きよ子
同　島田清香子
同　佐藤まさ子
同　土肥ゑし子
同　石田くわ子
同　佐々木かつ子
同　板谷うた子

金五十圓寄附に依り三等有功章贈與（以上六月二十五日）

●謝狀贈與

贈品	所屬	氏名
扇子一本婦女鑑一冊	宮城支部	佐々木りう子
同	同	渡邊まさ子
同	同	伊藤とら子
同	同	白石常代子
同	同	木村きよう子
同	同	靜澤田鶴子
同	同	山本か[illegible]ち子
同	同	早川ちやう子
同	同	武金子
扇子一本	同幹事	加藤りやう子
同	同同	亙理きう子
同	同同	渡邊まつ子
同	同	山家しの子
同	同	北岡うん子
同	同	鈴木やす子
同	同	佐藤ゆき子
同	同	高橋まん子
同	同	阿部ちとせ子
同	同	阿部しゝ子
同	同	高山よれ子
同	同	鎌田しも子
同	同	中島ひろえ子
同	同	齋藤ふみの子
同	同	加藤りやう子
同	同	佐々木しま子
同	同	後藤しげ子
同	同	小畑ちゑ子
扇子一本	宮城支部	武山あい子
同	同	松川はま子
同	同	岩代まつ子
同	同	伏見せよ子
同	同	木村まさ子

愛國婦人會定期救護金配當表

明治四十五年六月十日調

支部名	明治四十五年度 救護基數	定期救護金配當額	（參考）明治四十四年度 救護基數	救護金配當額
北海道	八四四人	八二九圓	八四四人	八四四圓
東京	三、五四〇	三、四七八	二、九三二	二、九三二
京都	一、四六〇	一、四三四	一、四六一	一、四六一
大阪	二、〇七五	二、〇三九	二、〇六四	二、〇六四
神奈川	一、五九三	一、五六五	一、五九二	一、五九二
兵庫	三、二二四	三、一六八	三、二二八	三、二二八
長崎	八一九	八〇五	七八六	七八六
新潟	三、一四九	三、〇九四	三、一〇〇	三、一〇〇
埼玉	一、四六一	一、四三五	一、四六二	一、四六二
群馬	一、四〇五	一、三八〇	一、四〇一	一、四〇一
千葉	一、四七二	一、四四六	一、四七四	一、四七四
茨城	九九四	九七七	九一八	九一八
栃木	九二〇	九〇四	八八二	八八二
奈良	八七二	八五七	八七一	八七一
三重	二、二二二	二、一八三	二、二二二	二、二二二
愛知	四、三二五	四、二四九	四、三〇五	四、三〇五
静岡	二、七一八	二、六七〇	二、六四九	二、六四九
山梨	二七一	二六六	二七一	二七一
滋賀	一、六一六	一、五八八	一、六一八	一、六一八
岐阜	三、五七〇	三、五〇八	三、五七〇	三、四六三
長野	二、三四九	二、三〇八	二、三四九	二、三四九
宮城	一、四〇四	一、三七九	一、四〇六	一、四〇六
福島	一、四五七	一、四三二	一、四五三	一、四五三
岩手	一、四三四	一、四〇九	一、四二八	一、四二八
青森	一、〇六四	一、〇四五	一、〇四八	一、〇四八
山形	一、三二〇	一、二九七	一、三〇九	一、三〇九
秋田	一、六〇〇	一、五七二	一、五五五	一、五五五
福井	一、五一〇	一、四八四	一、五一四	一、五一四
石川	二、八四三	二、七九三	二、八四四	二、八四四
富山	二、三八五	二、三四三	二、三六一	二、三六一
鳥取	八六〇	八四五	八六一	八六一
島根	一、三〇九	一、二八六	一、三一四	一、三一四
岡山	二、二一二	二、一七三	二、二一四	二、二一四
廣島	二、七六六	二、七一八	二、七六九	二、七六九
山口	一、四七五	一、四四九	一、四七二	一、四七二
和歌山	七六四	七五一	七七一	七七一
徳島	一、七二七	一、六九七	一、七二七	一、七二七
香川	一、七六九	一、七三八	一、七七〇	一、七七〇
愛媛	二、九三八	二、八八七	二、六二一	二、六二一
高知	一、一一二	一、〇九三	一、一〇四	一、一〇四
福岡	二、一九八	二、一六〇	二、二〇六	二、二〇六
大分	九七四	九五七	九七五	九七五
佐賀	九一三	八九七	九〇七	九〇七
熊本	一、九〇六	一、八七三	一、九〇五	一、九〇五
宮崎	一、〇三八	一、〇二〇	一、〇二八	一、〇二八
鹿兒島	一、二三六	一、二一四	一、二三八	一、二三八
沖縄	二〇五	二〇一	二〇五	二〇五
函館	九四	九二	九四	九四
計	八一、四二二	七九、九八八	八〇、〇九八	七九、九九一

備考
一、四十五年度定期救護基數ハ昨年四月以來本年三月盡日迄ニ各支部ヨリ提出セラレタル現況調査書中負傷ニ涉ルモノ再調査ヲ要スルモノ、廢兵ニシテ五項症以下ノモノ及將校ノ遺族並同廢兵ノ分ヲ除キタル數ニ從前ノ調査書中異動ヲ生シタルモノヲ除キタル分ヲ合算シテ之ヲ定メタリ
二、昨年度救護金總額ハ金七萬九千九百九拾壹圓ニシテ本年度ハ七萬九千九百八拾八圓ナリ而シテ一名ニ對スル按分率ハ金九拾八錢貳厘五毛ニシテ圓以下四捨五入ス

贈品	所屬	役名	氏名
扇子一本	宮城支部		平塚らん子
同	同		齋藤かつ子
同	同		横山かめよ子
同	同		櫻井きく子
同	同		猪狩みれ子
同	同		三浦千代子
同	同		坂しま子
同	同		長沼きみ子
同	同		楠かつ子
同	同		水島いち子
同	同		横田とよ子
同	同		清野わくり子
同	同		中島たか子
同	同		和達かつ子
同	同		丹羽るい子
木杯一組	同		小栗しげ子
同	同	幹事部顧問	仙石卯藏
同	同	同	向田幸藏
同	同	幹事部委員	清野龜二郎
同	同	同	阿部倉治
同	同	同	遠藤永次郎
同	同	同	入岡川新治
同	同	同	石田源藏
木杯一個	同	同	大里正夫
同	同	同	伊東友之助
同	同	同	日下榮五郎
同	同	同	齋藤卓次郎
同	同	同	加藤円虎郎
同	同	同	高成田宗藏
同	同	幹事部補助委員	菊池幸吉
同	同	同	阿刀田義潮
同	同	同	永野榮助
同	同	同	虎川忠之助
同	同	同	菊地廣信
同	同	同	安海長吉
同	同	同	早坂運之丞
同	同	同	安藤林左衛門
同	同	同	伊藤猪牙治
同	同	同	庄子敬寒郎
同	同	同	白石堅
同	同	同	高橋敬四郎
同	同	同	高橋平治郎
同	同	同	鎌倉庄兵衛
同	同	同	成田專之助
同	同	同	阿部政吉
同	同	同	大森美代吉
同	同	同	石川雅

功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與（四月二十三日）

婦女鑑一冊　北海道支部幹事　瓜生よて子
同　同　泉なか子

功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與（五月七日）

扇子一本　岩手支部評議員　杉山なか子
扇子一本婦女鑑一冊　同　江崎田鶴子

功勞に依り特別謝狀並頭書の通り贈與（五月四日）

●會報

▲理事會　去る十日午後一時より本部樓上に於て理事會開催、阿部、濱尾兩會長其他三輪田、棚橋、關、高木、山脇、丹羽の各理事出席、種々協議されたり。

▼評議員會　去る三日午後一時より本部樓上に於て評議員會開催、正副兩會長及び三輪田、有島、棚橋、關、古市、高木、山脇、丹羽の各理事、子爵夫人伊集院春子、鳩山春子、仁杉歌子、子爵夫人戸田時子、大久保榮子、押川愛子、岡田德子、渡邊源子、室田勢以子、男爵夫人目賀田逸子、三井五十子等の各評議員出席、會計規則中一部改正の件及び定期救護金配當の件等に就き種々評議ありたり。

地方記事

青森支部

▼第二回會員總會　青森支部第二回會員總會は總裁宮殿下並に赤十字社總裁宮殿下御台臨の光榮を得て去る六月二十二日縣立中學校庭内に於て擧行されたり。是れより先き同日午前赤十字社青森支部特別社員及職員總會兼支部建築落成式の擧行あり、更に午後二時より本會を開く、來會者は來賓、會員及び遺族廢兵を合せ一千餘名にして、定刻に至り國歌吹奏の裡に兩殿下には武田支部長の御先導にて式場に御着御、一同の最敬禮を受けさせらる、斯くて武田支部長開會の旨を宣するや總裁殿下には御聲もいと爽かに左の御諭旨を賜はる。

御諭旨

愛國婦人會青森支部は熱誠なる諸氏の盡瘁に由り漸次隆昌に赴き會務亦克く整頓し茲に第二回會員總會を開くに方り諸氏と親しく相見るは欣喜の至なり惟ふに遺族廢兵救護の道を講じ會務の擴張を期するは諸氏の力に俟たざるべからず夫れ諸氏忠愛の主旨を體し尙一層奮勵以て本會の目的を全うせむことを望む

是に於て武田支部長は進みて御諭旨を拜受したる後、更に御前に進みて左の奉答文を上る。

奉答文

今日しもこゝに　總裁宮殿下の御台臨を仰ぎ第二回會員總會を開くを得たるは當支部無上の幸福なるにまして親しく優渥なる御諭旨を拜し　閑院宮殿下又特に御列座の光榮をさへ賜はりしは會員一同の感激措く能はざる所にこそ想ふに本會の年々進うて益々榮え行くは偏に　總裁宮殿下の御盛德の然らしむる所我等一層勉め勵みて御盛旨に副ひ奉らんことを期す、茲に謹みて蕪辭を上り恭しく兩殿下の萬歳を祝ほき奉る。

明治四十五年六月二十二日
愛國婦人會青森支部長　武田濱子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次いで狹副長の會務並會計報告あり終りて阿部會長及木梨會員總代の左の祝詞あり。

祝詞

愛國婦人會青森支部は本日總裁殿下の台臨を辱うし第二回會員總會を開かるゝは洵に慶賀の至りなり惟ふに當支部は三十八年第一回會員總會を開かれし以來姉妹方の熱誠なる盡力に依り今や會務能く整ひ會員の增加せしこと壹萬餘人の盛況を呈するに至りしは本會のため感謝に堪へざる所なり然れども本會の目的たる遺族廢兵救護の事業をして遺憾なからしめんには前途尙ほ遼遠なり各姉妹方益々同心協力して本會の發展に努め以て總裁殿下の台旨に副ひ奉られんことを希ふ一言以て祝詞とす

明治四十五年六月廿二日

愛國婦人會長伯爵夫人阿部篤子

祝詞

青葉の陸に暗く杜鵑の聲しきりなる初夏の節をトし山の眺と海の景色に富める青森中學校の地を選びて茲に支部第二回の總會を開かる總裁殿下には竹の園生の御身もて斯かる集會に臨ませ給ひ且つ長くも御諭旨を給はれるは實にありがたき極みにて只々感涙に咽び奉るのみ顧ふに此の席に列れる我等會員は西は十三の湊より北は斗南の岡に至り岩木の峯の麓馬淵の川のほとり東西によりて俗を異にし海陸によりて業を分つ言語風采自異なる所あるは自然の理なりといへ御國に盡す眞ゐに至りては老いも若きも貴きも賤きも斯業の發展を圖り本會終極の目的たる慰藉救護に盡して一は明けき御代に生れし大君の御惠に答へまつり一はあり難き殿下の御諭旨に副ひまつる樣努めざるべからずこゝに總會に臨み聊か思ふ所を述べて祝詞に代ふるになん

明治四十五年六月二十二日

愛國婦人會青森支部會員總代　木梨たけ子

此時細雨漸く繁く天候益々怪し、依て武田顧問は有功章の御親授は校舍內に於てあらせらるゝ事に變更の旨を告げ、次いで廢兵及び遺族に對して特別御下賜金の御下賜あり、廢兵百十四名總代步兵特務曹長藤田德明、遺族四百九十三名總代三上太消寡婦三上ひで子、恭しく御前に進みて拜受の光榮に浴したり、かくて支部長閉會の旨を告げ、奏樂聲裡、兩殿下には一同に御會釋を賜ひつゝ御退場あらせらる、時に午後二時三十分、直に校內に於て百八十四名に對し一々有功章御親授あらせらる、式終るや別室に於て一同に對し茶菓の餐應あり、尙繪葉書其他の記念品を配付し、頗る盛大に本會を終りたり。

秋田支部

▲第二回會員總會　夜來の雷雨悉く晴れ渡りて一天拭ふが如き六月二十五日午前十時三十分秋田支部會員第二回總會は總裁宮殿下並に赤十字社總裁宮殿下御台臨の下に同市公會堂に於て開催されたり。

當日兩殿下には午前十時御旅館御出發、秦支部長其他職員の奉迎を受けさせられ公會堂へ着御、暫時貴賓室にて御休憩あり、此間支部職員佩有功章者等に謁見を賜ひ、秦支部長よりは職員名簿及會員表を奉呈す。

かくて定刻に至るや兩殿下は秦支部長の御先導にて式場に台臨あり、先づ一同の敬禮を受けさせられ、次で秦支部長開會の旨を宣す、是に於て總裁殿下には靜に御起立遊ばされ御聲朗かに左の御諭旨を御朗讀遊ばさる。

御諭旨

愛國婦人會秋田支部ハ夙ニ熱誠ナル諸氏ノ盡瘁ニ由リ會運日ニ月ニ隆盛ニ赴キ會務亦整ヒ茲ニ第二回會員總會ヲ開クニ方リ諸氏ト親シク相見ルハ欣喜ノ至ナリ

惟フニ遺族廢兵救護ノ道ヲ講シ遺憾ナカラシメンニハ諸氏ノ力ニ俟ツモノ多シ諸氏夫レ本會忠愛ノ主旨ヲ體シ尙ホ奬勵以テ會務ノ擴張ヲ圖ランコトヲ望ム

此時一同最敬禮をなせり、次いで秦支部長殿下の御前に進みて御諭旨を拜受したる後更らに御前に進みて左の奉答文を上りたり。

奉答

愛國婦人會秋田支部第二回總會を開くに方り長くも總裁殿下の台臨を迎へ奉り還く懇なる御諭の御旨を賜はり特に宮殿下御同列の御いてましを拜しまつれるは當支部のいとも榮となしいとも譽となす所にして誠に感激の至りに堪へす今より益々心を同くし力を協せいよく會務の擴張を圖り奉らせ因りても此の厚き御旨に副ひ奉らんことを誓ひまつるになん

茲に謹みて答辭を上る

愛國婦人會秋田支部長　秦　靜子

次いで佐藤支部副長は會務狀況を報告し、阿部會長左の祝辭を朗讀さる。

祝詞

愛國婦人會秋田支部は創設以來各姉妹方の熱誠なる盡力に依り年を逐ふて良好なる效果を收め會員の增加今や其數女子人口に對する百分比例三人四分餘に達し會務亦能く整ひ茲に總裁殿下の台臨を辱ふし第二回會員總會を開催せらる篤子等の洵に慶賀に堪へさる所なり然れども本會の目的たる遺族廢兵救護の事業を完了せんには前途尙ほ遼遠なり各姉妹方同心協力して益々本會の發展に努め以て總裁殿下の台旨に副ひ奉られんことを希ふ一言以て祝詞とす

明治四十五年六月二十五日

愛國婦人會長伯爵夫人阿部篤子

次に總裁殿下より辻榮子外百八十一名に對し有功章の御親授あり、拜受者は一々式壇上に進みて親しく拜受の光榮に浴し、更らに廢兵總代中川卯之松並びに遺族總代石澤たけ子に對し特別御下賜金の御親授あり、秦支部長の閉會の辭により式を終り、奏樂聲裡兩殿下の御退場に引續き一同退散したるが、當日の參會者約五千二百名、實に未曾有の盛況なりき。因に當日は煙火其他餘興の催あり且つ來會者に對しては一々記念菓子折を配與したり。

尙又兩殿下には式後暫時御休憩遊ばされたるが、やがて支部長顧問の御先導にて千秋公園に成らせられ、舊城內お隅櫓跡眺望絕佳なる所に假設したる四阿に入らせられ御晝餐を召させらる、かくて記念撮影の後支部授產場に成らせらる、授產場にては軍人遺族の受業生二十名が組紐をなしつゝある作業實況を台覽に供したるに、殿下には支部長に對し種々御下問を賜はり、且つ男用組紐五點、女用組紐二十點を御買上あり、阿部會長亦菓子料として金十圓を受業生に贈與されたり。

岩手支部

▲奉迎送　總裁殿下青森支部總會台臨の爲め、六月二十一日縣下御通過につき當岩手支部に於ては多數會員を奉迎送せしむるやう豫め各幹事部長に通牒し置き、當日笠井支部長並に笠井顧問は宮地主事を隨へ一の關驛に出張奉迎申上げたり、殿下には午前九時四十八分同驛に御着車六分間御停車にて同九時五十四分御發車遊ばされ、笠井支部長以下同列車に陪從せり、一の關驛にては澤田西磐井郡幹事部長並に同顧問を始め佩有功章者及幹事一般會員數十名、小泉驛にては幹事及會員數名、前澤驛にては幹事及會員數名、水澤驛にては佐土原膽澤郡幹事部長同顧問、齋藤江刺郡幹事部顧問其他幹事一般會員數十名、黑澤尻驛に於ては石川和賀郡幹事部顧問、幹事及會員數十名、花卷驛にては北村稗貫郡幹事部長同顧問、幹事及會員數十名、盛岡驛に於ては田中下田兩支部副長を初め支部評議員幹事等數十名、及び勝俣岩手郡幹事部長同顧問其他一般會員二百餘名プラットホームに整列し恭しく奉迎したり、盛岡驛御着車は午後十二時二十分なり、かくて笠井支部長は當驛より御免を蒙り下車す、因に同支部長よりは盛岡市產の西洋種苺及び櫻桃を特に注意して採收せしめ且つ精選したるもの各一籠宛を御車中の御慰みとして獻上を願出たるに、御採納の光榮に浴する事を得たり、盛岡驛御停車五分間にして十二時二十五分御發車遊ばさる、盛岡以北は沼宮內驛にては、幹事及會員數名、一戶驛に於ても亦幹事及び會員數名、福岡驛にては外岡二戶郡幹事部顧問及び幹事會員等數十名の奉迎員あり、笠井顧問は青森縣尻內驛迄奉送したり。

山口支部

▲奇特者表彰　山口支部內玖珂郡幹事部伊陸村幹事區內通常會員藤尾えしん子は藤富幹事部長より奇特者と認められ去十五日左記の賞狀に賞品(浴衣地一反)を添へ表彰されたり。

賞狀

玖珂郡伊陸村愛國婦人會員　藤尾エシン子

性温厚にして能く家業を勵み貞婦を以て賞せられしが不幸にして壯年夫を失ひ爾來自ら家長となり家政を治め子女を養育し長男源之進成年に達するや家督を讓り明治三十六年佛道に歸依し得度して佛門に入り同三十八年都濃郡末武北村より伊陸村千日寺に入庵し老軀を提げ其本尊たる觀世音菩薩に奉仕し傍ら信徒祖先の追善回向を爲し其布施を以て僅に糊口を凌ぎ曾て實家の補助の資と雖も之を節約貯蓄して金に攝替へたり且又四十二年伊陸村に規約貯留の金を爲し今尙ほ繼續し拂戻の晚になく勤勉貯蓄の精神に徹するや千日寺基本金に積立てんとし永久行はるゝや之に加入して毎月金三十錢宛の貯金をなすと云ふ國家經濟の心深く夙に愛國婦人會の趣旨を賛同し自ら進んで加盟し粗衣粗食して人の及ばざる非常の節約を爲し其資を以て醵金に充て一回の滯納なく今日に至れり且勤儉貯蓄の美風を鼓吹し自ら範を示し公共事業の常に忽にすべからざることを布演し其感化に努めり近隣の家計裕ならざる者數名入會せるに至れるは全く氏實踐躬行の感化に依れるものにして婦人として奉公心の厚き洵に見る所にして他の模範と爲すに足り實に奇特なりとす依て聊か別紙目錄の品を贈り茲に之を表彰す

明治四十五年六月十五日

愛國婦人會山口支部

玖珂郡幹事部長　藤田つな子

新潟支部

▲演藝會　新潟支部にては會員增募の計を立て昨年來各幹事部とも着々入會勸誘中なりしが會旨の普及十分ならざるを認め幹事部と協商し本部とも交渉の上本會事業の活動寫眞を骨子とし大島東玉を主旨普及員たらしめ餘興として講談、活動寫眞を加へ縣下五十三ケ所に演藝會を開きたるが、會は四月三日中蒲原郡龜田町に於て開催したるを始めとして一幹事部凡そ三四ケ所の割合を以て此日數五十六日を要し五月二十八日を以て終了せり、各地とも多大の同情と援助とにより何れも滿場立錐の餘地なき盛況を呈せり、某幹事部の如きは本會を慈善演藝會として有料入場券を發行し又は慈善販賣等の催ありて此收益を以て遺族廢兵の慰藉費に充てたるものあり殊に本演藝會の主旨を贊し即時入會申込をなすもの少からず爲めに會員增募上大なる利益あるを認めたり、因に當支部に於ては今回の增募により現在會員の倍數即ち女子人口百人に對し三人の會員を得る計畫なり。

愛國婦人二百五十三號附錄　發行人　八田一精　編輯兼印刷人　竹內貞三　發行所　東京麹町區飯田町　愛國婦人會發行所　印刷所　東京小石川區久堅町　博文館印刷所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN